

## 秩父・皆野新校基本計画検討委員会（第3回） 議事録

1 日 時 令和5年10月23日（月） 午後3時開会  
午後4時20分終了

2 会 場 県立秩父高等学校図書館2階研修室

3 出席委員 栗藤委員長、増田副委員長、小泉副委員長、横田委員、新井委員、池田委員、野澤委員、千島委員、齊藤委員、永田委員、坂本委員、吉田委員、田村委員、外山委員、藤倉委員、上遠野委員、小村委員

4 事務局 魅力ある高校づくり課 中島、坂本、高辻、橋本

5 協 議 「秩父・皆野新校（仮称）基本計画（案）」について

栗藤委員長 それでは次第2、協議に入ります。本日の協議に当たって、資料の概略を説明します。前回までの本委員会での協議及び新校準備委員会での意見を踏まえ、事務局において【資料1】秩父・皆野新校（仮称）基本計画（案）を作成しました。本資料が最終的に新校の基本計画（案）となっていく予定ですので、御承知おきください。本日の委員会における協議と、この後開催が予定されている新校準備委員会での意見を頂いた後、教育委員会での報告や教育長の決裁を経て、正式に策定していきたいと考えています。なお、前回お示しした新校基本計画骨子（案）については、資料1の中に溶け込んでおります。両委員会等を経て修正した箇所については、（参考資料1）秩父・皆野新校基本計画骨子（案）修正一覧に記載していますので、適宜御参照ください。それでは、【資料1】秩父・皆野新校（仮称）基本計画（案）について、事務局から説明をお願いします。

事務局 （秩父・皆野新校（仮称）基本計画（案）のうち概要、1 策定に当たっての基本姿勢、2 基本的枠組み、3 校名について説明）

栗藤委員長 それでは、少しボリュームがありますので、先ほど事務局と打合せをさせていただきまして、四つのパートに分けて説明、協議をまいります。一つ目のパートとして、1 策定に当たっての基本姿勢から3 校名まで、資料で言いますと、2ページの途中までということになります。まずこのパートについて、御意見、御質問等がございましたらお願いいたします。

千島委員 皆野高校の千島です。2の(2)、学科名のところなんですけれども、国際教養科に修正した案が示されておりますが、国際探究科でも良いのではないかという意見です。というのも、私だけでしたら大変申し訳ないのですが、教養という言葉が、答えがあるものを学ぶというイメージが私の中にありまして、これから社会で求められる人材というのは、知識基盤の社会ではなく、答えのないものを、いかに

自分たちなりに考えていくかということですね、なんと申しますか、模範解答みたいなものがない中で探っていくという力が求められる中で、教養という言葉ではなくて、もともとの案であった探究、一言で言えば探究ということになると思いますが、これについては流行り言葉という意見もあったのですが、これから先、すぐに社会が別の社会に変わるようなことはないのではないかと考えています。プラスですね、国際探究科という学科名は今、そんなになんかと思うのですが、そんなになんかからこそ、この学科名にしておいて、国際探究科と言えば秩父・皆野新校ということで中学生にも分かりやすくなるのではないかと思います。そういったことで、私は国際探究科のままで良いのではないかとこの意見です。

栗藤委員長 はい。本日お示ししている学科名はこれまではなかったものですので、いろいろな御意見等があるかと思えます。学科名について、他にいくつか御意見をいただければ併せていただいて、その後に事務局から見解があれば説明いたしたいと思います。他の方でいかがでしょうか。では、これに至った経緯や考え方について事務局から説明をお願いします。

事務局 御意見、ありがとうございます。当初の原案は国際探究でございましたので、それを推していただいたという形でもありました。それを、修正した経緯ですけれども、まず、新校基本計画検討委員会の方で、国際と探究がマッチしないという御意見がございました。そういった御意見を受けたところもでございます。また、その後に行われた新校準備委員会でも、探究は今流行っているが、流行り廃りがあるので探究はどうかという意見をいただいたことが発端でございます。また、少し話は逸れるのですが、実は岩槻新校でも国際探究科を原案にしている、国際教養科に変えたという流れがあるのですが、そういったところも含めて、国際と探究には違和感があるということで、事務局の方でも修正を考えたところなんです。なぜ国際教養科かということですが、教養と言うと、リベラルアーツ的な要素も含まれておりまして、その中に探究型の学びも含まれるのではないかとこのところもございました。今回は、秩父高校のこれまで地域の進学校の伝統を引き継ぐ部分もあるかと思えます。また、皆野高校が取り組んでこられた探究的な学びということもあります。そこを総合的に、教養という言葉でくくればということで、探究も含んでいるということで、今回、国際教養科とさせていただきます。御理解いただければと思えますが、事務局からは以上です。

栗藤委員長 この修正案を出す上での考え方を説明していただきました。教養の訳語がリベラルアーツとイコールかどうかということについてはいろいろあるかもしれませんが、STEAM教育のAというのは、リベラルアーツを指しているということもありますし、教科横断的な意味でも、幅広くいろいろなことを学んでいく、探究型学習もそこには含まれるだろうという考え方を事務局としては持っておりまして、そこに、これまでの委員会での委員からの御意見を重ねていったという形になっております。増田副委員長、お願いします。

増田副委員長 秩父高校教頭の増田です。秩父高校の先生方は、基本的には、多くの先生が国際探究科という名称には反対でございました。その理由としては、そもそ

ものですが、国際に関する学科の設置は公約に掲げているのですが、あくまで国際に関する学科であって、探究に関する学科を県の方では約束していないんですね。そういったところかと思えます。それから、国際探究科にした場合、先ほど千島委員もおっしゃっていたように、探究という言葉がどこまで持つのか、耐久性というのがどうなのかという意見も先生方から上がってきました。それともう一点、国際探究科にすると、基本的に柱が二つできるということになります。国際のことをやるのと同時に探究のこともやらなければならなくなり、それは当初の趣旨から外れるのではないか、それから、完全に方針からずれてくるのではないか、また、先生方の負担もかなり増大するのではないか、そういった意見を受けましたので、秩父高校としては、大体の先生が、国際教養科が良いという御意見でした。そういった経緯があるということで、御承知おきいただければと思います。

栗藤委員長 増田副委員長から、秩父高校側での様々な御意見の様子などを説明いただいたところです。これを踏まえて何かございますか。あるいは、秩父高校の先生方で、これを補足するとか別の角度からお話がいただけるようであれば、お願いします。なかなか難しいところではあるかと思えます。基本計画を策定していく、新校を開校する、もっと言えば高校を再編していくといったときには、どうしても地域の皆さんの声に、私たちは耳を傾ける必要があります。その地域の皆さんを代表するのが準備委員会になるわけですが、どうしても準備委員会で出された意見などは、ある程度それを拾ってということ、事務局としては心掛けたつもりです。本日は、この後別のところで使うのですが、(参考資料1)秩父・皆野新校基本計画骨子(案)修正一覧に、●で示されているのが、準備委員からの意見、つまり地域の方の声となっております。なかなか、探究ということにやや後ろ向きな声もあったりしたものですから、今のような経緯を踏まえて修正案が出てきていると御理解いただければと思います。では、ひとまず先に進んで、また学科名のところでもう一度振り返って御意見をいただく時間も設けたいと思いますので、今は、学科名についての御意見が出てまいりました。他にも募集人員については、これまで議論してきたところですが、これまでどおり、4クラスと1クラスということで募集するという形になっています。それから、埼玉県の公立高校は学年制が基本ですので、学年制という記載があります。事務局から説明があった1から3までで、もう少し御意見があればいただいて、なければ次のパートに進みたいと思います。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。では、次のパートについて、事務局から説明をお願いします。

事務局 (秩父・皆野新校(仮称)基本計画(案)のうち4 基本理念、5 教育活動等の基本方針(1)基本姿勢及び(2)教科指導、6 教育活動等の基本方針の具現化(1)教科指導について説明)

栗藤委員長 はい。二つ目のパートについて説明がありました。これまでのところで、御意見、御質問等がございましたら、お願いします。

野澤委員 秩父高校の野澤です。目指す学校のところですが、これは、普通科と国際教養科の両方を合わせての目指す学校だとすると、少し国際教養科に偏ってしまっ

ているのではないかという印象が拭えないです。全体としてこれでということ、普通科はこちら、国際教養科はこちらといった組み合わせのような意図がどこかにあったら良いと思うのですが、いかがでしょうか。

栗藤委員長 はい。内容を少し学科ごとに分けてはどうかという御意見かと思いますが、事務局としてはこの辺りのまとめ方、考え方というのはいかがでしょう。

事務局 御意見、ありがとうございます。こちら、確かにおっしゃるとおり、厳格に分かれていないところが正直なところ。なかなか普通科の方は、広く普くというところで書き込みづらいうところもありまして、どちらかと言うと国際の方はばかりが目立つイメージになってはいるのですが、両方の学科に当てはまるように記載したところではあります。違和感があるようでしたら、こういったところを直した方が良いという御指摘をいただくと助かります。これまで両校から出てきた意見をまとめて記載しておりますので、確かに普通科の表記が薄まっているところがあるかと思いますが、両方に掛かっている表現でもないと、事務局としては考えております。

栗藤委員長 前回も同じようなやりとりがあったかと思いますが、どうしても普通科というのが、無色透明という言い方が正しいか分かりませんが、なかなか色を付けにくい、その中で国際関係に関する学科の記載がどうしても中心にならざるを得ないといった、構造的なものもあるのかもしれないという話がありました。一緒に動いている、同じように国際関係に関する学科を設置する和光新校においても、岩槻新校においても、同じようなことが傾向としては見られます。ただ、普通科に対して、専門学科が何かしらの良い影響を与えていくということは、いろいろな学校で見られるということもありますので、秩父・皆野新校も、国際関係に関する学科があるおかげで、より国際色の豊かな学びが展開されるものと考えております。準備委員会でもほぼ同じような御意見をいただいております。普通科の学びもしっかり書かなくて良いのかといったものです。その辺りは、表現的にはこんな感じでしょうかということ、お話をさせていただいたところでした。何か具体のフレーズを入れ込んでほしいといったお話がいただけますと、事務局としても大変有り難いところです。今日のこの第3回を最後の委員会にできたらという思いで私たちは臨んでいるのですが、委員会の中でなかなか平行線になってしまうような状況がある場合には、例えば、一旦私の方で預からせていただいて、事務局の方で検討を重ねるとか、次の第4回目を設定するかしないかということももちろんあります。ですが、できれば今日、最終的な形にまとめて準備委員会の方にお渡し、そこでまた御意見を頂戴するという流れにしたいと考えております。千島委員、お願いします。

千島委員 質問なのですが、この目指す学校のところで、国際教養科に偏りがあるという話が出てきましたが、こういった探究的な活動や地域に貢献するというのは、国際関係に関する学科しかやらないというわけではなくて、どちらもやって、どこまで尖らせるかという部分が学科によって違うだけで、育てたい生徒像は変わらず、出していただいた案のように育てていきたいという理解でよろしいでしょうか。

栗藤委員長 はい。質問ということですが、事務局からいかがでしょうか。

事務局 御意見、ありがとうございます。千島委員のおっしゃるとおり、国際教養科だけが探究をやるわけではなく、普通科の生徒も含めて学校全体で探究活動に取り組んでいただきたいと思いますので、目指す学校も、両学科に掛かった内容となっております。

栗藤委員長 言葉が似ているので、前にもお話ししたかもしれませんが、この基本計画に載せるのは、目指す学校というものです。皆さんが日常的に、学校の中長期的な目標として掲げている目指す学校像とは違うものです。近いものに結果的にはなるかもしれませんが、目指す学校像を今決めようとしているわけではなく、基本計画の中における目指す学校、どういった学校を目指していくのかということを考えているということになります。今、事務局から回答があったように、全体に共通して、こういう学校を目指していく、また、こういう生徒を育てたいということが記載されているというふうを受け止めていただければと思います。他にございますか。それでは、次のパートに進みます。全体を振り返る時間は後で取りたいと思います。それでは、三番目のパートについて、事務局から説明をお願いします。

事務局 (秩父・皆野新校(仮称)基本計画(案)のうち5 教育活動等の基本方針(3)生徒指導、(4)進路指導及び(5)生徒募集、6 教育活動等の基本方針の具現化(2)生徒指導、(3)進路指導、(4)生徒募集及び(5)その他について説明)

栗藤委員長 三番目のパートについて、説明がありました。御質問、御意見等がございましたら、お願いします。修正にもいくつか種類がございます。字句の使い方等については、埼玉県教育委員会というクレジットが入る以上、県の公用文の書き方などに、基本的には準拠しております。実はこの後、もう少し教育局の方で、もしかしたらそういった修正を入れさせていただく可能性もあります。そういう細かいところは、こちらで責任校正をさせていただきますので、内容の部分で是非、御意見御をいただければと思います。千島委員、お願いします。

千島委員 進路指導のところ、具現化のウに当てはまる内容かと思いますが、進学を目指す学校ということですが、進学の仕方について、一般入試か、あとは指定校なのか等いろいろな種類があるかと思いますが、その大きな捉え方と言いますか、一般入試を多くの生徒が、特に国際に関する学科の子たちが進んで受けていくと考えると、なかなか探究活動や地域での活動がやりにくくなるのかと思います。できたとしても、強みと呼べるほど、がつつができるものではなくってしまうのかなと考えています。進路もしっかり確保しつつ、新校の目指していくところを実現していくということで、事前に指定校を含め進路を確保しておく必要があるかと思います。そういった部分も、進路指導の具現化に、今あるところに絡ませるなら具現化ウ辺りかと思いますが、もしくは新しく項目を追加して入れ込むのが良いではないかという意見です。

栗藤委員長 はい。記載の内容につきましては、具現化のところはそれなりに具体的なことを書き込んでおりますが、この場合、進学をさせるそのやり方を基本計画に載せるというのは、少し細かすぎるかなというところがあります。大きな枠組みである基本計画が出来上がった後で、来年度、先生方を中心として、委員として管理

職の先生方をお願いするのですが、新校開設委員会というものができます。その下に、様々な部会を作っていただいて、例えば教務部会だとか進路部会とか、そういったところで両校の共同作業が行われていくこととなります。是非、そういったところで御提案していただくのが良いかと思えます。ですので、余り詳細のことまでここに規定してしまうと、県が県民に対して約束するというものですので、一般入試ではなく何が何でも総合型選抜を狙っていく学校というふうにしてしまうと、後で身動きが取りにくくなってしまう可能性があると思っています。事務局から何かありますか。

事務局 先ほどの千島委員の御意見は事前に皆野高校から伺っていたものでございまして、確かにおっしゃるとおり、御意見は詳細な部分もございまして、大筋は具現化ウに含まれているのかと思っております。詳細の部分に関しましては、来年度から新校開設委員会を開催していきますので、両校の方で具体的にはいろいろ詰めていただければと思っております。

栗藤委員長 それでは、坂本委員、お願いします。

坂本委員 皆野高校の坂本と申します。生徒募集のところで質問いたします。前回、くくり募集という案が出たと思いますが、それについては、御検討いただけましたでしょうか。

栗藤委員長 では、事務局からお願いします。

事務局 くくり募集については御意見を伺いましたので、事務局で検討いたしまして、記載するかどうかも含めて考えたのですが、基本的には、くくり募集を具体的に記載するのは難しいと捉えております。強いて挙げれば生徒募集の具現化オのところ、入学者選抜において、学校の特色や育てたい生徒像を踏まえた選抜基準を設けるといふところに、くくり募集ももし今後検討する上では含まれるのではないかと捉えております。今回、基本計画の方には、くくり募集という具体は記載しなかったというのが現状でございます。なかなか、くくり募集にもメリット、デメリットがあるかと思っておりますので、この時点では、くくり募集とは記載していないところでございます。

栗藤委員長 いかがでしょうか。くくり募集に関しては、基本計画に載せるとなると、先ほどの御意見と同じように、県民に対する約束になってしまいますので、必ずくくり募集による生徒募集を行わなければならなくなります。本来は、それぞれの学校が生徒募集を行うときに、あるいは生徒の人員をどう確保していくかといったときに、いろいろと工夫をしていく内容かと思えます。まずは大きな枠組みを固めていくということで、来年度、そういった議論をしていただくことはもちろんありだと思っております。参考までに紹介しておきますと、いきいきハイスクールで立ち上がった進修館高校は、この基本計画にくくり募集と入れました。そしてくくり募集をずっとやっていたのですが、学校としてはくくり募集を外したいという希望が出ていたものの、基本計画に載せてしまった、つまり県民に約束してしまったことから、なかなか修正がきかず苦労したという話を聞いています。ですので、ここはあえて記載せずに、学校の生徒募集あるいは募集人員をどう確保するかという議論

の中で、御検討いただくのが良いのではないかというのが、私たちの考えではありません。全然考えていないとか絶対無理ですとかそういうことではないので、この先検討していったらいかがかなと思っております。他、いかがでしょうか。

小村委員 校務の関係で今回初めて参加させていただいております。これまでの経緯があったかと思いますが、生徒指導の基本方針ウの記載なのですが、もったというところは、ここはあえて平仮名にしているという理解でよろしいでしょうか。

栗藤委員長 事務局からお願いします。

事務局 御指摘ありがとうございます。こちらについては、他と表記を揃えた形で平仮名表記としておりますが、先ほど委員長からもありましたとおり、この後もう一度、改めて公用文における漢字の使い方ですか、そういったところを踏まえて整理してまいりたいと考えております。場合によってはまたこの部分を漢字表記にすることも含めて、検討していきたいと考えております。

小村委員 ありがとうございます。

栗藤委員長 恐らく局内では、もつは漢字の方が、県の公用文の書き方に準拠していると思います。いろいろと検討を重ねていく中で、今はこうなっておりますが、この後調整していきたいと思っております。内容的には問題はないということよろしいでしょうか。

小村委員 はい。

栗藤委員長 ありがとうございます。はい、千島委員、お願いします。

千島委員 その他の部分についてです。基本計画の中に、地域とか地域連携という言葉がある中で、皆野高校が進める地域連携で、地域と連携する体制をどうやって作るのかというところが、大きな課題として挙げられます。人と人はつながっていて連携はできるんだけど、その人がいなくなってしまうと続かなくなってしまうりだとか、結構大きな課題だとすごく感じています。なので、その他の部分に、地域と連携して教育活動を進めていくための組織、どうやって、誰のリーダーシップで地域とつながるのか、どうやって整えていくのかといった部分をここに書いてしまった方が、我々からすればやらざるを得なくなるということになります。進めていくためにはそういう文章があった方がやりやすくなるのかなと思います。人によってというよりは学校としてやっていくというのを示せるのではないかと思います。なので、その他の部分に、そういった組織について追加しても良いのかなという意見です。

栗藤委員長 はい。これについて、事務局からいかがでしょうか。

事務局 こちらも皆野高校から事前に意見ということで伺っているところではあったのですが、事務局としましては、先ほどおっしゃっていただいたことは、例えば、進路指導の具現化オに、地元企業や公共団体と連携し、という文言に含まれるのではないかと考えております。また、生徒募集の具現化イに、生徒募集体制を強化するとともに、というところに包含されているのではないかと捉えて、あえて今回は追加していないところがございます。意図としては、秩父高校にも伝わったのかなと思います。来年度以降の新校開設委員会等で細かい内容については詰めていって

いただいても良いのかなというところで、あえて修正しないでお示ししております。栗藤委員長 全般的に、来年度以降の検討の余地があるところは、極力来年度に送っています。送るとするのは悪い意味ではなくて、詳細は、更に相応しいメンバーで検討していく機会、組織がありますので、そちらでやっていただきたいと考えております。他の基本計画もそうなんですけれども、極力、具体的な組織を作りますとか具体的な約束というのは、先ほどから申し上げているとおり、避けるようにしております。ただ、それをやっちはいけないということではなく、やらないという結論を出したのではなく、この先検討していくのが良いのかと考えているところです。ですので、少し積極性に欠けている、消極的な表現と言われてしまうとそれまでかもしれないですが、どうしても、大きな枠を作るというところに徹したいと考えて、文言を整理しているところです。他、よろしいでしょうか。では、最後のパートについて、事務局から説明をお願いします。

事務局 (秩父・皆野新校(仮称)基本計画(案)のうち7 開校準備、8 対象校における教育活動、9 教育環境の整備、10 付随する事項について説明)

栗藤委員長 最後のパート、7、8、9、10について説明がありました。このパートのところで御質問、御意見等ございましたらお願いします。よろしいでしょうか。それでは、前に遡ってこの部分でもう一度ということがあれば、振り返りの時間を取りたいと思います。全体を通じてということで。本日は90分の時間を予定しておりますが、この3回目がなんとか無事着陸できれば、その時間をもって終了と考えております。最後、言い残しがないようにしていただきたいと思います。私たちとしては、この3回目を最後の委員会にしたいと思っておりますので、全体を振り返って何かあれば、この機会にお願いします。野澤委員、お願いします。

野澤委員 資料1の5ページ、(3)生徒募集及び入学者選抜のところなんですけれども、選抜の事務は秩父高等学校が中心となり、皆野高等学校が全面的に協力して行うというふうに、やんわりと、こういう表現なんだろうけれども、イメージがちょっと湧きませんので、どれくらいの感じなのかということですよ、新しい学校での入試に当たっては、どこまでを役割分担としてイメージができるのかというところが分からないので、教えていただければと思います。

栗藤委員長 事務局からお願いします。

事務局 御質問ありがとうございます。第1期の児玉新校と飯能新校の例で御説明させていただきます。児玉新校と飯能新校は、今回の2期と違って、3学年が揃った状態で統合するということで、実際に統合のときは皆野高校には3年生しか残っていない状況なので先生方の数とかそういった違いはありますが、例えば児玉高校の場合ですと、少しややこしいのですが、新校は児玉高校という校名になりましたが、試験会場は児玉白楊高校で行われることもあり、児玉高校の先生には、受検生が当日会場を間違えないように案内等をお願いするといった形の協力の仕方がありました。また、飯能新校の場合は、実施には飯能南高校は入学者選抜の日は授業を行っていたので、入学者選抜の会議に管理職の先生が参加するという協力の仕方もありました。ただしこれも絶対ではなくて、基本的には対象校の両校でどういう形で



協力できるのかというところを検討していただいて、決めていただければと考えております。参考になるかというところではございますが、そういったところを考えていただければと思います。

栗藤委員長 ということですが、イメージできたでしょうか。むしろ、入試もそんなんですけれども、生徒募集について両校が協力するということも、第1期では割と見られました。駅前とか北辰テストの会場で学校説明会への案内チラシを配るとか、そういったことに両校が協力したという経緯もあります。秩父高校と皆野高校の場合は、距離が結構ありますので、その辺り、どういうやり方が良いのかということとは、両校でよく相談していただく形になるかと思えます。事務局から今の件で補足があるようです。

事務局 参考までにお話をさせていただきます。以前、再編対象校にいたときは、閉じる学校から、何名かの先生方に試験監督でお手伝いに来ていただいた記憶がございます。採点についても、枚数が増えたということもあり、お手伝いに来ていただいた記憶があります。何名だったかは定かではありませんが、そういった協力の仕方もあるということで、参考にさせていただければと思います。また、両校で御相談いただければと思います。

栗藤委員長 はい、新井委員、お願いします。

新井委員 秩父高校の新井です。生徒募集の具現化アに、PR動画の作成、広報誌への掲載等を通じてとありますが、このPR動画の作成というのは、具体的にはどのようなものをイメージされているのか、教えていただければと思います。

栗藤委員長 事務局からいかがでしょうか。

事務局 こちらのほうは、具体的に何かこういった形をお願いしますとものではなく、広報というものを考える際に、例えばYouTubeですとかInstagramですとか、そういったより中学生に伝わりやすいツールを使って広報活動等が行われております。本当に幅広く新校の魅力を、様々な中学生、保護者に、あるいは地域の方に伝えてほしいという思いもありまして、PR動画の作成という形で記載させていただいております。具体的にこういった形で行っていくかというところは、来年度以降の開設委員会で先生方と、もちろん、事務局としてもできるところを協力して、一緒になって広報していければと考えておりますので、よろしく願いいたします。

新井委員 ありがとうございます。動画については、秩父高校にも学校紹介動画がありますが、これは同窓会の方から御支援をいただいて作っているものです。先ほどのお話で、これは県民の皆様にお約束するものだというお話がありましたが、PR動画をもし作るとなったら結構時間もお金もかかるのですが、もしここにPR動画と載せる場合は、お金とかそういったものは下りるのでしょうか。

栗藤委員長 事務局、どうでしょうか。

事務局 この場ではっきりとお答えすることはなかなか難しいところですが、そういったところも含めて、実際にやっていく中では検討していきたいと考えております。学校紹介動画は同窓会の御支援をいただいてというお話がありましたが、これから先、新校のPRをしていく中では、こういった形で、もちろん先生方の御負担も考

えながらやっていくことになるかと思えます。第1期の飯能高校ですと、飯能高校の若い先生方を中心に学校独自のLINEとInstagramとYouTubeと、どんどん発信している状況もあります。それも、強制的になるとなかなか負担ということになるのですが、こういったツールが使えるかということも含めて、検討していければと考えております。

新井委員 秩父高校では今、地域のコーディネーターの方がInstagram、それから一応学校ではYouTubeがあるのですが、なかなか更新ができない状況があります。部活動の単位で生徒が作ったものを上げているという状況です。生徒募集でPR動画を作成するというのは、あったら本当にすごく良いものだと思いますし、令和8年度の新校開設に向けて作るべきなのかもしれませんが、ただそれを載せることによって、恒常的に更新しなければならなかったり、作り直しということも考えられると思います。一応、県の方からの公式な情報発信ツールとしてはホームページが一番先に挙がるのかなと思うのですが、このPR動画の作成というのをここに載せてしまうと作らざるを得ないということになると思うので、できれば、ホームページ、それから広報誌への掲載等を通じてとかそういった表現にさせていただくことは可能でしょうか。

栗藤委員長 委員長の方から少し申し上げますが、約束、約束と私も言っていたのでなかなか説得力がないですが、PR動画については、例えば第1期の場合は、それぞれの新校ごとに教育長の動画を2本作っています。それから、中学校の入試説明会のときに、CMのような形でスポット動画を、15秒ものと30秒ものを作ってそれをそれぞれ流しています。これらは事務局が作りました。ですので、ここに書かれているものは、秩父高校の今あるハイクオリティな、同窓会の協力によって業者が作った大変素晴らしい動画、あれを作りなさいというのではなく、いろいろなやり方がある中の一つの表現方法というふうに記載しています。少し前を振り返りますと、コロナ禍において、学校説明会がなかなか開けなかったときに、各学校が動画を作る機会を設けたりもしていました。すごく素晴らしいモデルがあるのでそのイメージが強いかもしれませんが、私たちとしては、様々な形で中学生に新校の魅力を伝えられる媒体、もちろんホームページもそうですしSNSもそうですし、いろいろなことがあるのではないかと考えています。確かに記載については、具体的に動画と広報誌と打ち出しているのも、ホームページというのもしっかり載せるべきではないかという御意見もあるかと思えますが、いろいろなメディアが考えられるということで、等という表現が入っており少し幅を持たせております。その辺りは、事務局もそうですし、来年度の開設委員会の中で検討していただくのが良いかと思えます。ですので、今ある素晴らしい動画を毎年同じ水準で、同じクオリティで作ってくださいと意味でもないと理解していただければ良いと思っています。我々は作りますので、事務局からいかがですか。

事務局 過去の資料を振り返りますと、PR動画の作成については、秩父高校から出てきている案でございます。前回の委員会でも特にここは御意見をいただかなかったところだったと思えますので、秩父高校としていかがかというところでございます。

す。第2回の資料を見ていただくと、秩父高校案にPR動画の作成、リーフレットの配布という文言があったので、事務局としてはそれをそのまま使わせていただいたというところですか。いかがいたしましょうか。秩父高校としての総意ということであれば、変えることも可能かと思えます。

栗藤委員長 新井委員、お願いします。

新井委員 御説明ありがとうございます。今回、全体を通してもう一度確認をということだったので、意見させていただきました。先ほどお話があったように、事務局で作っていただく動画とかそういったもので代用できるということであれば、良いのかなと思います。いずれにしても、作った方が良いのは良いと思うので、ただ、準備の段階で、いろいろなことを進めていく中で動画を実際に作るというのは、なかなか厳しいものもあるのかなと思います。以前、私は学校で予算を取らないで動画を作ったことがあったのですが、1年間かけて作ったもので、なかなか時間も労力もかかりますので、少しその点を聞きたかっただけです。代替できるのであればそれで良いと思います。

栗藤委員長 いろいろな学校が様々な、特にPRを中心とした動画を作成しています。その作成のノウハウも、いろいろな蓄積があると思いますので、これを機にそれぞれの学校で、学校をPRする動画はどういったものが良いのか、どういったコストで作れるのか、そういったところを研究されても良いのかなと思います。よろしいでしょうか。今、全体を振り返る時間で、たまたま生徒募集のところ集中しましたが、それ以外で何かございますか。

小村委員 先ほどもお伝えしたとおり前回は欠席しておりますので、目指す学校について先ほど野澤委員からも御意見があったかと思いますが、アからウの並びが骨子案から修正案に変わった経緯について、その辺りが少し分かれば教えていただけますでしょうか。

栗藤委員長 事務局からお願いします。

事務局 御説明いたします。骨子案については第2回の準備委員会でお示したところ、項目として、一番に地域の観光資源という話題が出て、その後に自国の伝統や文化、最後に地域の歴史や伝統というこの並びが少し気になるという御指摘をいただきました。そのお話の中で、まず最初に自国の伝統や文化という広いくくりから入って行って、その後に地域の歴史や伝統、そして最後に地域の観光資源という形に順番を変えた方が良いのではないかという御意見が出ましたので、そういった御意見を踏まえて順番を修正しております。それ以外は簡単な体裁の部分の修正になります。

栗藤委員長 よろしいでしょうか。

小村委員 先ほど御意見があったように、やはりここはすごく大事なところかと思えます。個人的には、骨子案で出されている方が、なんとなく全体像がしっかりつかめるのかなというイメージがあります。今日初見なのですが、そこを感じました。修正案の良さもあると思うのですが、修正案のアで最初に国内外で活躍できる人材とか国際感覚を身に付けるというところが目に付いてしまうと、どうしても先ほど

野澤委員のような御意見が出てくるのかなと感じたところです。ですので、どちらが良いとかそこまでは踏み込めませんが、一番大事なところかなと思いましたが、確認させていただきました。ありがとうございました。

栗藤委員長 検討過程もありますので、修正案で準備委員会でのお声も拾ったと私たちは考えております。よろしいでしょうか。他、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。意見がなければ、この後どういうふうに進めていくかということについて、私の方からお話しさせていただきたいと思えます。いくつか内容的にと言いますか、記載のことは野澤委員から、普通科をもう少しうまく表現できないかといった御意見もありました。ただ、具体的な文言をいただいておりますので、そういった部分につきましては、委員長が預らせていただきまして、責任校正という形で、もちろん、当課の主任管理主事を兼務しているそれぞれの教頭先生を通じて御相談させていただこうと思えますが、全体としては概ね、今日の協議の結果で、こちらの案を認めていただいたという形にしたいと思えます。そのことについて何か御異議等がございますか。よろしいでしょうか。そうしましたら、今日、お時間をかけて御意見を頂戴しましたので、本日の協議は以上で終了したいと思えます。そして、今回の開催をもちまして、当初予定しておりました3回の委員会が全て終了したことになります。本日協議いただいた内容を踏まえ、先ほど申し上げたように、場合によっては少し資料を修正させていただくことがあるかもしれませんが、また、言葉遣いなどにつきましては、先ほどから申し上げているとおり、埼玉県の公用文の使い方のルールに最終的には準拠させたいと思っておりますので、御了解いただければと思えます。そしてこの案を、来月予定されております準備委員会の方に送りまして、そちらでの委員の皆様からの御意見を踏まえて、最終的な形にまとめていきたいと考えております。本日お集まりいただきました委員の皆さんにおかれましては、この委員会への出席はもとより、骨子案の検討や議事録の確認など、去年から考えますと1年弱にわたって、お忙しい中、いろいろと御協力いただきまして、感謝を申し上げます。先生方におかれましては、先ほどから申し上げているとおり、来年度、具体的内容、特に教育課程などを詰めていくという段階がございますので、そちらの新校開設委員会などでお世話になりたいと思っております。引き続き、御協力をお願いいたします。